

岩国大竹道路対策特別委員会 中間報告

本特別委員会は、国道2号の慢性的な交通渋滞解消のため、バイパス機能をもった岩国大竹道路を早期に建設し、この事業に伴う諸問題を解決することを目的に設置され、平成25年9月から9回の会議を重ねてきました。これまでの審査経過と現在の状況についてご報告します。

岩国大竹道路について本特別委員会が引き継いだ当時、平成25年8月末で進捗率は、面積では51・4%、契約金額では77・7%でした。

買取予定地は、御園二丁目からJRガード付近を通り国道2号周辺に至る区域と元町地区ですが、御園地区の一部、元町地区においては、境界確認や地図訂正に予想以上に時間を要し、用地買収に遅れが生じているところ。立退者への代替地の状況は、上下水道局前44区画、ゆめタウン南側1区画の合計45区画のうち、引渡済みの区画が27区画あり、残り18区画が空き区画となっており、また、晴海第1公園の商業者用代替地は、商業者の方の代替地から一般分譲へ切り替えたこともあり10区画中9区画が売却されています。

本特別委員会では、国土交通省中国地方整備局広島国道事務所の関係職員を参考人等として招き、平成26

年9月に委員会室審査を、平成27年6月に現地調査及び委員会室審査を行い、それらを受け、本事業に伴い新たに設けられる市道の歩道設置や直線化等による安全対策、渋滞解消対策等国土交通省に対する本特別委員会の要望項目をまとめました。

平成27年6月1日現在の本事業の進捗率は、面積では56・4%、契約金額では86・2%となっています。現時点では、国においても完成年の想定ができない等当初の建設予定よりかなり遅れが生じていますが、一刻も早い完成が期待されているところです。

審査の状況は以上ですが、本事業は、大竹市はもろろん広島県西部・山口県東部に欠かせない交通体系の根幹をなすとの位置づけです。これまで多くの地権者や立退者の立場を尊重しながら審査を進めてきました。関係各位のご協力に対し、心から感謝申し上げます。

岩国大竹道路対策特別委員

- 委員長 山本 孝三
副委員長 藤井 馨
委員 寺岡 公章・乃美 晴一
委員 細川 雅子・二階堂 博
委員 田中 実穂・西川 健三

まちづくり対策特別委員会 中間報告

まちづくり対策特別委員会は、議員個々が地域で捉えた意見を交換し、議会から市長の政策判断に積極的に関与する「提案できる議会」を目指し設置され、平成25年9月から今まで11回の委員会を開催し議論してきました。

はじめにテーマを決めるための意見交換を行った結果、旧小方小・中学校の跡地の活用やJR新駅の構想など課題の多い小方地区のまちづくりをテーマとすることにしました。

委員同士で地域のまちづくりを議論していくことについて疑問の声もありましたが、財源が無いから、具体的な計画がつかめないから、そこで考えることをとどめてしまうのではなく、将来大竹市がこうなっていきたいという構想を練り、少しでもそれに近づけていくことを考える姿勢こそが大切なことではないかということ、事業費等を考慮した具体的な計画というわけではなく、自由に意見を出し合いました。

さらに、小方まちづくりの構想について、委員が各会派に持ち帰り検



まちづくり対策特別委員

- 委員長 児玉 朋也
副委員長 藤井 馨
委員 大井 渉・網谷 芳孝
委員 乃美 晴一・北林 隆
委員 二階堂 博・田中 実穂